

生活単元学習指導案

児童 1年男子2名 3年男子1名 5年女子1名 計4名
指導者

1 単元名 わくわく広場で遊ぼう

2 単元設定の理由

(1) 児童について

本学級は、5年児童1名、3年児童1名、1年児童2名である。5年児童は、交流学級で社会・理科・音楽・体育の交流学习をしており、自力で参加している。他の児童は、音楽・体育の交流学习をしており、支援員が付き添って参加している。

能力的に大きな差がある子どもたちであるが、5年児童が他の児童の世話をしたり、他の児童が5年児童をお手本にして活動したり、3年児童が1年児童に刺激を受けながら活動したりと、少しずつ良い関係ができ始めている。

1年児童2名と3年児童1名は、体が小さく疲れやすかったり、動きのコントロールがうまくできないため歩き方や走り方がぎこちなかったりする。手指等、体の部位を使うこともまだ上手にはできず、自信のないことには遠慮がちになってしまう。また、状況を理解できずに自分の気の向くままに行動してしまうことも多く、みんなで力を合わせてまとめた活動をする経験が少ない。また、5年児童は、周りの人に注目されながら活動することが苦手である。特に、初めてのことや自信のないことに対しては、泣いたり動けなくなったりして全く活動しないことがある。そのため、本児の持つ力や良さが発揮できず残念な思いをすることが多い。

このような子どもたちに、どの子も楽しみながらできそうな活動を準備し、お互いに関わり合い、のびのびと体を使いながら、みんなで一緒に活動させることにより、心身を発散させ、自信や次の活動への意欲へと結びつけていきたいと考えた。

(2) 児童の実態

氏名	行動の特徴	本単元に関わる児童の実態
A 男 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> はっきりとした言葉話すのはまだ難しいが、話したい気持ちは旺盛である。 活発で、いろいろなことに興味を持ち、自分の気の向くまま行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ上手にはできないが、はさみやのりを使って色紙で遊ぶことは好きである。支援されながらペンや絵の具で線を描いたり色を塗ったりすることができる。 おもちゃで遊んだり、走り回ったりしながら楽しむことができるが、ひとつの活動に集中できる時間は短い。 活発であるが、動きのコントロールは未発達である。
B 男 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なコミュニケーションはできるが、自分から意思表示することがまだ難しい。 周りの様子を見ながら行動できる。いろいろな活動を楽しみながらすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ器用にはできないが、何を作るかを理解しながら製作活動ができる。単純な作業は支援なしでできる。 友達と一緒におもちゃで遊んだり、運動したりすることができる。 体を動かすことは好きであるが、動きがぎこちなかったり転んだりすることがある。
C 男 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉でのコミュニケーションはまだ難しいが、簡単な言葉を理解することはできる。 気分が乗るまでに時間がかかることが多いが、乗ってくると元気に活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援されながら、紙をのりで貼ったり、シールを貼ったり、ペンや絵の具で線を描いたり色を付けたることができる。 友達に誘われて遊ぶことができるようになってきた。ボーリング遊びやフラフープ・風船遊びができる。 歩いたり走ったり階段を昇ったり降りたりすることができるが、動きがぎこちない。
D 女 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> 改めて質問されたり発表したりするときに難を示すことが多いが、普段のコミュニケーションに問題はない。 下級生の子の面倒をみたり世話をしたりすることができる。 自分なりに見通しの持てない活動に対しては、泣いたり動けなくなってしまう。自信がある活動は、積極的することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作活動が好きである。やり方を見たり聞いたりしながら自力で作ることができる。ゆっくりと丁寧に作業ができる。 下級生の子を活動に誘ったり、活動のお手本になったりすることができる。 体を動かす遊びが好きである。表現活動は苦手であるが、やり方がはっきりしているものは、取り組みやすい。 進んで働くことができる。使った物の片付けを積極的にすることができる。

(3) 単元について

これまで、子どもたちは、生活単元学習や図工の時間に季節ごとの飾りを作ったり、廃材を使ったおもちゃ作りをして遊んだりする活動を経験している。支援をたくさん必要とする子、やり方を示しただけで自力で作ることができる子等、様子はさまざまであったが、どの子も出来上がったときには満足感を持つことができたようだった。できたものを飾って喜んだり、遊んで楽しんだりすることができた。この経験を活かして、本単元では、遊ぶ道具を自分達で作る、それらを組み合わせて「わくわく広場」とし、遊ぶこととした。

楽しく遊べそうな道具を自分たちで作る、それを使って楽しい広場を作り、のびのびと楽しく遊ぶ活動を通して、児童の主体性を育てたり友達同士の関わりを深めたりすることをねらいたいと思う。

(4) 指導にあたって

本単元では、作って遊ぶ活動が主になる。やや大きな素材であるダンボールを使い、思いのまま色付けをする等、作る段階からダイナミックに活動させ、さらに遊ぶ場面でもたくさん体を動かせるようにし、心身の発散を図りたい。また、単元を通して、技能的・身体的に未熟な児童への支援を、教師だけでなく子どもたち同士でも可能な限り行わせ、子ども同士の関係作りもねらっていききたい。特に、D児については、他の児童の手本となったり学級の中でD児でなければできない役割を持たせたりしながら活動させ、自信をつけさせていきたい。

「わくわく広場」を実現するために、4人の児童がみんなががんばって造形活動をし、できたもので思い切り楽しく遊ぶ姿を期待したい。

3 単元の目標

- 「わくわく広場」の実現に向けて、造形活動にがんばって取り組むことができる。
- 「わくわく広場」で楽しく遊ぶことができる。
- 教師や友達と一緒に、楽しみながら活動に取り組むことができる。

4 本単元と他の領域・教科との関連

本単元	生活単元学習	図工	日常生活での配慮
わくわく広場で遊ぼう	季節の飾りを作ろう	おもちゃ作り クレヨンで描こう	順番を守ること。友達を叩かない・友達のものを取らない。言葉での意思表示。手先の訓練。使ったものの片付け。気分左右されずがんばって活動する。

5 指導計画 (全12時間)

次	時	学習活動
1	1	活動の見通しを持つ。
2	7	作って遊ぼう。 ころころスロープを作って遊ぼう (1時間) ダンボール積みで遊ぼう (1時間) ボールプールを作って遊ぼう (3時間) 本時2 / 3 キャタピラを作って遊ぼう (1時間) ダンボールハウスを作って遊ぼう (1時間)
3	1	わくわく広場を作ろう。
4	2	わくわく広場で遊ぼう。
	1	たんぽぽ学級の友達と一緒にわくわく広場で遊ぼう。

6 本時の指導

(1) 全体の目標

- 教師や友達と一緒にボールプール作りをがんばる。
- 最後まで活動に参加する。

(2) 個人の目標

児童	個人の目標	個別の指導計画との関連
A	○ダンボールや新聞紙のボールへの色付けを楽しみながら行う。 ○新聞紙を丸めたりセロハンテープで貼ったりする作業を支援されながらがんばることができる。 ○教師や友達と一緒に最後まで活動に参加することができる。	○途中で投げ出さずに活動する。 ○友達と仲良く遊ぶ。

B	<ul style="list-style-type: none"> ○ダンボールや新聞紙のボールへの色付けを楽しみながら行う。 ○教師や友達のまねをしながら、新聞紙のボール作りをがんばることができる。 ○教師や友達と一緒に最後まで活動をがんばることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを自分から意思表示する。 ○自分のしたいことを自分で決める。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ダンボールや新聞紙のボールへの色付けを、支援されながらがんばることができる。 ○新聞紙のボール作りを、まねしながらやってみようとする。 ○支援されながら最後まで活動に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験のないことでも、友達や教師と一緒にがんばろうとする。 ○気分に合わせて左右されずにがんばろうとする。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールプールを作るという目的意識を持って活動できる。 ○ダンボールや新聞紙のボールへの色付けを楽しみながら行う。 ○やり方を覚えて、新聞紙のボール作りを積極的に行う。 ○他の子に教えながら活動することができる。 ○後片付けを積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きなことを中心に、活動の幅を広げていく。 ○気持ちの切り替えを早くする。 ○失敗を気にしすぎずに活動する。

(3) 展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 今日の活動内容を知る。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容、活動の順番、時間について、教師から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A・B・C児が活動内容を把握しやすいように、作る物の写真を示す。 ・活動の流れや時間を示し、D児が活動の見通しを持てるようにする。
展開 38分	2 ボールプールの枠を作る。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールに絵の具で各自色を付ける。自分で選んだやり方で色付けをする。 ・ダンボールを貼り合わせ、枠に組み立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵筆・スポンジ・タンポ・手等で色を付ける方法を示し、やり方を選ばせる。 ・教師も一緒に色付けをし、モデルを示したり、楽しさを共有できるようにしたりする。 ・やり方を工夫している子には、注目するようにみんなに声がけをする。 ・C児がやろうとしない場合は、少し時間を置いて誘いかける。 ・教師と一緒にD児に行わせる。 ・枠ができたことをみんなで喜び合うように、声がけをする。
	3 ボールを作る。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった枠の中に、前時に作ったボールを入れ、まだ足りないことを確認する。 ・前時のやり方を思い出しながら、新聞紙のボールを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・D児に、ボールの数について考えさせる。 ・2つのグループに分かれて協力して作るようにさせる。 ・D児に、C児に教えながら一緒に作るよう促す。 ・がんばってボールを作ったことをほめる。

	4 枠の中にボールを入れ、みんなで入ってみる。 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日作ったボールをプールの中に投げ入れてみる。 ・ 2人位ずつプールに入ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく遊べそうであることを確認し、完成までがんばろうと声かけする。
	5 片付け (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使った道具をみんなで片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B児・D児に筆洗いをさせる。 ・ A児・C児に絵の具のトレーを片付けさせる。
終 末 2分	6 活動の振り返り (1分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんばって作ることができたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B児・D児に言葉で確認した後、全員に挙手で確認する。
	7 次時の活動について知る。 (1分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、足りないボール作りをすることとボールプールで遊ぶことを知らせる。 	

(4) 評価

- ・ 教師や友達と一緒にボールプール作りをがんばることができたか。
- ・ 最後まで活動に参加することができたか。